

共同運営部門：がん治療センター

—概要—

がん治療センターの活動の一貫として、「がん治療検討委員会」を開催している。がん治療検討委員会は、がん治療全般における円滑な診断治療、薬物治療や放射線治療等に関する適正な管理を行うことを目的としている。

「がん治療センター」は日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本血液学会、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本乳癌学会をはじめ、各領域の悪性疾患治療に関する学会の指導医、専門医、認定医を擁している。化学療法、分子標的治療等薬物治療に関する臨床試験に多数参加し、胸腔鏡、腹腔鏡による低侵襲手術も積極的に行っている。さらに、胃がん大腸がん直腸がんに対する腹腔鏡手術だけでなく腹腔鏡下肝切除に関しては、全例登録して施行する準備を進めている。低侵襲治療として原発性および転移性肝がんに対するラジオ波焼灼療法だけでなく、早期乳がんに対してもラジオ波焼灼療法を研究的治療として前方視的臨床試験等に登録し行なっている。血液悪性腫瘍に関しては同種造血幹細胞移植を再開した。

また、各種がんの診断治療においては、治験や全国規模の臨床試験に深く関与しており、エビデンス構築に貢献している。これらの実績を基盤とし、従来行なわれていた進行癌に対する集学的治療に加え、早期癌に対する新たな薬物治療、手術治療等に関しても、先進的な診断・治療を積極的に取り入れ、医療の質の向上に貢献している。また診断、治療方針を決定し難い症例を中心にキャンサーボードにて多数の診療科専門医をはじめ、多職種による検討を積極的に行っている。

緩和ケアチームでは週一回の病棟回診を行っており、がん性疼痛コントロールや精神的不安等の軽減のため多職種による検討を行ない方針を決定している。

なお、2015年9月6日にエブノ泉の森ホールにて第4回泉州がんフォーラムを主催し、各種悪性腫瘍に関する講演を院内各診療科協力のもとに行なった。

—今年度の成果と反省点—

キャンサーボードを行なう症例が増加傾向にはあるものの提示症例にやや偏りがあることが課題である。

—来年度への抱負—

地域連携をより強固にしつつさらに安全、確実な診断、治療やエビデンス構築に貢献する。

—実績—

薬剤部からの報告

化学療法処方箋枚数

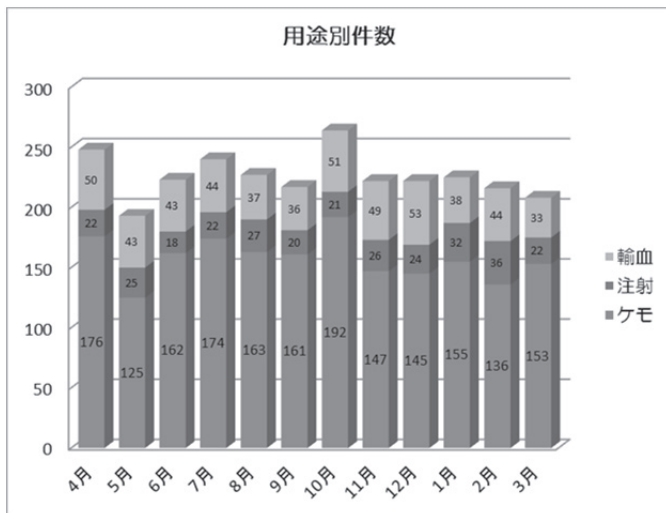
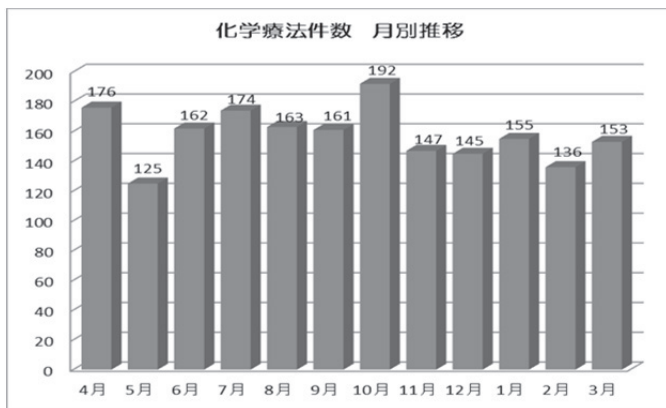
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	184	154	178	180	163	178	190	146	146	161	141	160	1,981
入院	140	131	155	128	84	96	150	106	116	125	166	122	1,520
総数	324	286	333	308	247	274	340	252	262	286	307	282	3,501
ミキシング本数	479	457	533	448	362	396	520	395	415	426	442	429	5,302

外来化学療法件数(2015年度)

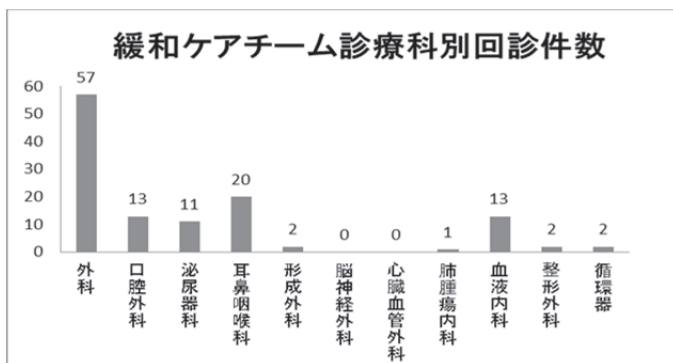
月	外(乳)	外(大腸)	外(胃)	外(膵)	外(他)	外科	血内	肺内	口外	膠	泌	脳外	耳	ケモ計
4月	56	33	14	4	1	108	45	16	1	1	3	2	0	176
5月	32	24	12	8	1	77	29	11	0	6	0	2	0	125
6月	61	33	10	5	4	113	37	7	1	2	1	1	0	162
7月	53	27	18	5	1	104	46	15	1	3	2	2	1	174
8月	57	32	12	3	2	106	40	10	0	1	2	1	3	163
9月	60	34	12	5	0	111	30	7	0	4	6	2	1	161
10月	70	34	12	4	0	120	44	11	9	3	4	1	0	192
11月	48	27	14	2	0	91	19	8	19	3	6	1	0	147
12月	54	27	17	0	0	98	15	9	12	3	4	1	3	145
1月	46	37	13	0	0	96	39	0	8	3	5	0	4	155
2月	46	27	7	3	0	83	36	0	6	4	2	0	5	136
3月	46	31	3	1	0	81	55	0	8	2	4	1	2	153
月平均						99								157
合計	629	366	144	40	9	1188	435	94	65	35	39	14	19	1889

月	リュープソ	ゾラテックス	フェソテックス	ゾメタ	ランマーク	レキネド	アクテムラ	オレンシア	ゴナックス	注射計
4月	3	4	4	1	4	1	4	1	0	22
5月	5	7	2	2	5	1	1	2	0	25
6月	5	2	2	1	4	2	1	1	0	18
7月	2	4	4	1	5	1	1	3	1	22
8月	3	6	4	3	7	0	1	2	1	27
9月	1	1	4	1	8	1	2	2	0	20
10月	4	5	2	2	7	0	1	0	0	21
11月	3	7	2	2	8	1	1	1	1	26
12月	2	2	2	5	9	1	1	2	0	24
1月	5	5	2	3	12	1	1	2	1	32
2月	3	7	4	4	13	1	2	1	1	36
3月	1	2	6	2	9	0	0	1	1	22
月平均										24.58
合計	37	52	38	27	91	10	16	18	6	295

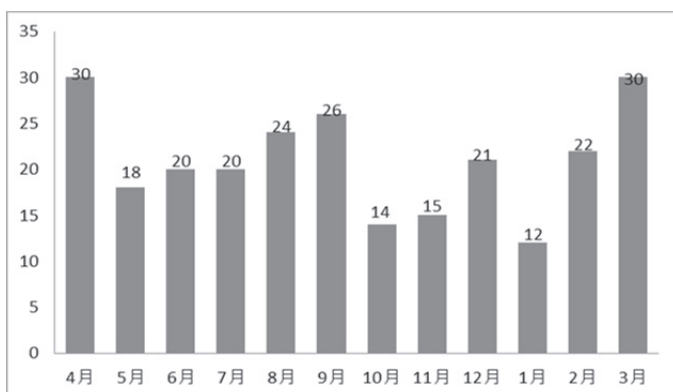
月	加算計	オエンテーション	情報	ホットフラッシュ	ポート抜去	点滴	静筋皮下	輸血	合計
4月	198	12	19	3	4	0	1	50	287
5月	150	8	13	6	1	2	0	43	223
6月	180	14	17	8	0	1	0	43	263
7月	196	13	18	11	0	0	0	44	282
8月	190	20	28	7	0	1	0	37	283
9月	181	13	11	4	2	1	0	36	248
10月	213	18	41	10	2	0	0	51	335
11月	173	10	26	7	0	2	0	49	267
12月	169	10	19	8	0	0	0	53	259
1月	187	15	25	3	0	1	0	38	269
2月	172	10	18	4	0	3	1	44	252
3月	175	9	19	8	0	2	1	33	247
月平均	182							43.4	
合計	2184	152	254	79	9	13	3	521	3215



緩和ケアチームからの報告



緩和ケアのべ人数



臨床研究状況 (一部抜粋)

研究内容	予定被験者数
肝胆膵外科手術後の表層および深部感染後の切開創治療における陰圧閉鎖療法(Negative Pressure Wound Therapy:NPWT)の有用性に関する前向き検討	5
大腸がん患者の血液中アミノ酸濃度およびアミノ酸関連代謝物濃度に関する臨床研究	20
手術可能乳癌患者を対象としたフローズグロブ、弾性ストッキングの nab-paclitaxel による末梢神経障害予防効果の検討 (Phase II)	2
エストロゲンレセプター陽性再発乳癌を対象としたエベロリムス使用症例における口内炎予防のための歯科介入無作為化第Ⅲ相試験	3
骨髄腫関連疾患患者の臨床データおよび治療経過に関する疫学観察研究	
レナリドミドによる維持療法施工中の多発性骨髄腫症例における免疫応答の動態の検討	1
HER2 陽性進行・再発乳癌におけるエリブリン+ペルツズマブ+トラツズマブ 3 剤併用療法の有用性の検討臨床第 2 相試験	2
肝胆膵領域悪性腫瘍に対する術後静脈血栓塞栓症予防に対するエノキサパリン投与の第Ⅱ相ランダム化比較試験	6
アプラキサンによる末梢神経障害 (CIPN) と SNP s の関係に関するトランスレショナルリサーチ	3
HER2 陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第Ⅲ相臨床試験～ペルツズマブ再投与試験～	3
胃切除患者に対する積極的な栄養介入効果に関するランダム化比較試験	30
胃癌患者における NY-ESO-1 抗体価の腫瘍マーカーとしての有用性の検討	30
乳癌の術前・術後化学療法における発熱性好中球減少症に関する観察研究	5
症例登録システムを用いた腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討	3
高リスク成人骨髄異形成症候群を対象としたアザンチジン投与方法に関する臨床第Ⅲ相試験－検体集積事業に基づく遺伝子解析研究を含む－ JALSG MDS212 Study および厚生労働科学研究費補助金による検体集積事業との合同研究	8
内分泌療法耐性エストロゲン受容体陽性転移乳がんに対する二次内分泌療法のコホート研究	3

委員構成

医師 (15名)	がん治療センター長兼外科主任部長	位藤 俊一
	診療局長兼血液内科部長	鳥野 隆博
	中央検査部長兼部長	今北 正美
	呼吸器センター長兼部長	桂 浩
	歯科口腔外科部長	大前 政利
	Acute caresurgery 副センター長兼部長	山村 憲幸
	外科医長兼緩和ケアチームリーダー	西谷 暁子
	肺腫瘍内科部長	森山 あづさ
	膠原病内科部長	入交 重雄
	周産期センター産科医療センター長兼部長	荻田 和秀
	泌尿器科医長	森山 泰成
	耳鼻科部長	碓田 猛真
	血液内科部長	福島 健太郎
	中央放射線部長兼部長兼放射線治療センター長	櫻井 康介
	脳神経外科副医長	井間 博之
看護師 (4名)	がん化学療法看護認定看護師	森 沙苗
	8階海側看護師長	射手矢 奈津子
	8階山側看護師長	高島 麻由美
薬剤師 (2名)	がん性疼痛看護認定看護師	杉野 幸恵
	薬剤部部長	森朝 紀文
MSW (1名)	薬剤科主幹	中川 直樹
	がん相談支援センター	下村 恭子
事務 (4名)	医療マネジメント課長	林 一彦
	医療マネジメント課主幹	守谷 美輝
	医療マネジメント課	角家 心子
	医療マネジメント課	坂田 祐美子